

韓国延世大学
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 3年

2023年2月下旬から6月下旬まで、韓国の延世大学にて留学生として生活した約4か月間は、毎日が新鮮であり、貴重な体験ができた、かけがえのない日々であった。私にとって、今回の留学が初めての渡航ということもあり、不安なことや慣れないことが多く、精神的に辛い時期もあったが、それ以上に多くのことを学び、多くの素晴らしい出会いを得ることができた。本報告書では、私が韓国で経験したことや、韓国で学んだことについて共有させていただきたいと思う。

まず初めに、延世大学での大学生活についてお話したい。私が、通った延世大学は、韓国でも名高い大学で、講義室や図書館は常に整備されており、勉学に励むには最適な環境の中で大学生活を送ることができた。そんな延世大学で留学生として大学生活を始めて特に驚いたことは、講義時間であった。延世大学の講義時間は150分間であり、静岡県立大学の90分間という講義時間とは全く異なっていたのである。150分間と言っても、講義の1コマは50分間で、基本的に3コマ連続で行われるため、150分という講義時間になるのだ。私は、講義時間が150分間であることを知り、日本の大学との大きな違いに不安を感じた。果たして集中力が持つのだろうか、ずっと座っていることができるのだろうか、このような不安が頭を過った。しかし、私の心配は全くもって無駄であったのだ。なぜなら、50分毎に10分間の休憩があったからである。休

憩時間があることによって、講義中に集中力が切れることはなく、腰も痛くならず、最後まで講義を受けることができた。4カ月間、この形式で講義を受けてきた私は、150分間講義に大きな可能性と魅力を感じた。日本と韓国で講義時間にここまでの差があるとは考えていなかったため、日韓における相違点や類似点に関心がある私にとって、思いがけない学びであった。また、私は、サークル活動として、クライミングの部活に所属していた。活動は週に2日でそれぞれ2時間ほどの活動であったが、少し体を動かすだけでもリフレッシュになり、とても良かった。さらに、部活に所属したことで、多くの在校生とも知り合うことができ、自身の活動の幅も大きく広がったように思う。

次は、韓国での日常生活についてである。私は、大学構内にある寮で、2人の韓国人ルームメイトと共に生活をしていた。韓国での生活を通して、日本にはわからない、多くのことを学ぶことができた。特に印象的であったのは、韓国人ならではの優しさである。韓国に行く前まで、私は、韓国人の性格は、さばさばしているのではないかと思っていた。韓国は、「早く早く」の文化で、韓国人の人々はもどかしいことを嫌うということを知ったことがあったからだ。実際、この「早く早く」の文化は正しかった。1番この傾向を感じるのは、韓国での生活で欠かすことができなかった交通手段の1つである、バスに乗る時である。日本のバスは、比較的運転が穏やかで、乗客の乗り降りが完全

に終了するまでは出発しない。しかし、韓国のバスは、乗客が乗った瞬間に出発するのである。乗客は座る暇もない。降りる時は、基本的に扉の前で構えていなければならない、早く降りなければいけないというプレッシャーさえ感じるのだ。実際、早く動かないと、目的のバス停で降り損ねる場合もしばしばあるという。このように「早く早く」の文化がある韓国だが、私の予想とは全く異なり、人々はとても温かかったのである。荷物を持って混雑しているバスに乗っていると、見ず知らずの座っている方が「重いでしょ？」と荷物を持ってくださることが何度もあった。また、1人で荷物を運んでいたら、「支えておくからゆっくり運びなさい。」と扉をずっと支えてくださった方もいた。見ず知らずの人同士でも、当たり前前に助け合うという韓国人の仲間意識や、「情」を感じた。これらは、日本では経験することが少ない優しさではないだろうか。実際、日本人からすると「おせっかい」と思えることも多々あった。しかし、これが韓国人の優しさであり、当たり前であることを学んだ。私は、この韓国人ならではの優しさに触れるたびに、心が温かくなるのを感じた。それだけ、韓国の優しさが温かいのである。異文化交流をする上で、このような小さいようで大きい違いを理解することは互いにとって重要であり、とても興味深い相違点であると考えた。

最後に、日韓関係について韓国人がどう考えているのか、私が実際に韓国に

行って学んだことをお話したい。日韓関係や日本についての韓国人の考え方や視点を学ぶことが、この留学の大きな目標であった私にとって、この話題はとても興味深く、勉強になるものであった。私は、大学で、ルームメイトを含む数人の韓国人の学生に話を聞いた。学生にのみ話を聞いたため、全ての世代の韓国人の考え方ではないが、「日本の政治に関しては何も言えないが、日本の文化とは別である。」という意見や「昔、日本が韓国に対して行ったことは許せないが、今はもう状況が変わったため、これからはお互いが理解し合わなければならない。」という意見、「日韓双方の政治を担う人々が、もっと策を講じるべきである。」という意見がみられた。また、日本にも政治と人々を分けて韓国について考える人がいるように、韓国においても、政治と人々を切り離して日本を捉えている人は多くいるという。一方で、日本に対して大きく抗議する団体も見受けられた。ソウルの景福宮を訪れ、周辺を歩いていた時、竹島について抗議する韓国人のデモを目撃したのである。日本でもデモを見たことがなかった私にとって、忘れられない、とても衝撃的な出来事であった。その時は、デモの内容が日本への批判や過激なことで、とても恐ろしかったため、日本人だと気づかれないよう、素早くその場を後にした。韓国に直接行くことで、韓国には日韓関係について、相互理解を深めるべきであると考えている人がいる一方で、過激な意見を持つ人々もいることを、身をもって学んだ。しかし、

日本も同じ状態なのである。日韓関係は、本当に難しい問題であり、今もなお複雑であるということを、留学を通して実感した。

韓国での4か月間は、長いようであっという間に過ぎてしまった。慣れない環境で生活することへの不安や、韓国語の難しさに躓き、辛い時期もあったが、4か月間があっという間に感じたほど、充実した日々を送ることができた。今回の留学を通して、挑戦することの楽しさや、多角的に物事を考察することの重要性、さらに多文化理解の大切さを、身をもって学んだ。また、多くの素晴らしい出会いにも恵まれた。このようなかけがえのない経験を支えてくださった全ての方々に心から感謝し、この経験を活かして、さらに大きく成長していきたい。

交換留学報告書

－延世大学－

静岡県立大学

国際関係学部国際言語文化学科3年

韓国の延世大学への交換留学は、当初の留学目的だった「韓国語のコミュニケーション能力を身につけ、直接韓国の文化や社会を感じ、理解を深める」ということを達成できただけでなく、自分自身を見つめ直し、自己成長できた素晴らしい経験となった。留学中、言語や文化の違いに戸惑うことも多々あったが、韓国で得たすべての経験と出会いが私の価値観と視野を広げ、新しい自分との出会いにつながった。私にとって本当に刺激的だった10か月間の留学生生活を、〈授業〉、〈アルバイト〉、〈人間関係〉の3つに分けて報告する。

まず、授業に関して報告する。前期に受講した「高級韓国語会話」と「高級韓国語読み書き」の授業を通して、自身の韓国語力を大きく上達させることができた。授業名に「高級」とあるように、授業内容としては難しく、普段の会話では使わないような専門的な語彙・表現を覚える必要があった。授業に後れ

を取らないよう、普段の韓国語の勉強法を見直し、効率的に韓国語を勉強するようになったことで、実践的な韓国語を身につけることができた。また、韓国語の勉強に熱心な他の国からの留学生たちと一緒に韓国語を勉強できたことはいい刺激になり、モチベーションを維持しながら勉強に取り組むことができた。前期は語学の授業を中心に受講していたが、後期は学部の授業を中心に受講した。前期の間に培った韓国語力を活かせるかと思ったが、現地の授業についていくことは想像以上に難しく、授業の大半が聞き取れなかったこともあった。授業内に友達を作ることにも苦戦し、このままでは単位を落としてしまうのではないかと絶望に陥ったこともあった。授業面で精神的に少しつらかった後期を乗り切ることができたのは、学校の図書館の存在が大きかった。図書館の2階は会話OKのスペースとなっていて、適度な雑音がある方が勉強に集中できる私にとっては、勉強するのに最適な場所だった。試験期間中は図書館が24時間開館しているため、徹夜して勉強する学生も多かった。私も何度か図書館で朝まで勉強したことがあるのだが、夜遅い時間になっても人が多かったことが印象に残っている。

次に、アルバイトに関して報告する。4か月間という短い期間ではあるが、私はアルバイトとして、週に1~2回、各2時間ほど、日本への留学を控えて

いる韓国人学生の方に日本語を教えていた。誰かに何かを教えること自体が初めてであったため、上手に教えられるのかという不安があった。そして、この不安は的中し、日本語を上手に説明できない自分にもどかしさを感じ、相手に罪悪感を抱くこともあった。それでも相手の学生さんの日本語力が徐々に上達していることを実感できたときの達成感とやりがいは格別だった。このアルバイト経験を通して、言語・文化交換の難しさと楽しさを知ることができただけでなく、日本語を教える課程を通じて、日本語と日本文化を客観的に見る視点を養うことができた。

最後に、人間関係に関して、ルームメイトとサークル仲間の観点から報告する。まずルームメイトについて、留学中、私は2人の韓国人ルームメイトと共に生活をしていた。ルームメイトの2人は本当に親切で、韓国語や韓国文化を教えてくれたり、疑問や悩みの相談にのってくれたり、様々な面でお世話になった。初めての寮生活を何不自由なく過ごすことができたのは、いいルームメイトに恵まれたおかげだと強く感じている。次にサークル仲間について、私は留学先でクライミングサークルに所属していた。クライミングサークルには約100名程度が所属しており、比較的大規模なサークルだった。サークル内には、日本が好きな人や訪日経験がある人が多く、日本から来た私や友人に積極

的に話しかけてくれる人が多かった。毎週の活動に行くたびに友達が増えるのを実感し、とくに飲み会や合宿旅行ではたくさんの人と仲を深めることができた。ルームメイトやサークル仲間との関わりを通して実感したことは、自分の性格が思っていたよりもずっと内向的だということである。私は自分から話しかけることが苦手で、現地での友達作りはかなり苦戦し、何度も自己嫌悪に陥った。そして、自分から積極的に動くことの大切さを痛感し、この挫折経験は自身の性格を成長させる貴重な経験になった。



(サークル合宿旅行の様子)

留学を無事に終えた今、留学先で得たものすべてが人生の財産となり、10か月間の韓国留学の機会を頂けたことに大変感謝している。留学先で得たことを今後の人生に活かし、自己成長を続けていきたい。

大韓民国
延世大学校 未来キャンパス
交換留学報告書

国際関係学部 国際言語文化学科 3年

1学期間の交換留学は短い期間であったが、多くの人と出会い、毎日自分の殻を破って多くの学びを得た非常に濃い時間だった。この4ヶ月の交換留学の経験をもとに、「生活面で知っておいてほしいこと」と「新たな発見」の2点を紹介する。

交換留学先の延世大学校未来キャンパスは、ソウルから離れた江原道の原州市という地域にある。キャンパスは山に囲まれた場所にあり、大学の目の前には湖がある。このように未来キャンパスは、静岡のような自然豊かな場所にある。私は出身が静岡であるため、静岡に似て空気がよく落ち着いた雰囲気のある原州市が非常に好きだった。原州市は田舎だが、キャンパスにはコンビニやカフェがいくつもあり、施設は充実している。さらに、大学の前には「メジリ」と呼ばれる飲食店の集まった場所があるため、食事には全く困らない。延世大学未来キャンパスはソウルから離れた場所にあるが、魅力的なキャンパスである。しかし、このキャンパスで過ごすには多くの食費が必要である。自炊をすれば食費を抑えることができるが、バスやタクシーを利用しなければスーパーに行くことができない。このように未来キャンパスは自炊をするには不便であるため、多くの大学生は自炊をせずに外食をしていた。また、学食の値段は700円～800円であり、決して安いとは言えない。食費が非常にかかる生活環境ではあるが、私は短い留学期間の中で多くの人と交流をしたかったため、様々な人と学食を食べ、出前を頼み、外食をした。おかげで、4ヶ月の間に多くの友人と仲を深めることができた。留学先で出会った人と外食をすることは留学生生活を充実させる一つのポイントであると思う。実際に私は、友人たちと食事をした記憶一つ一つが、かけがえ

のない思い出となっている。食費はかかってしまうが、今後交換留学に行く学生も積極的に留学先の友人と外食をして、充実した留学生活を送ってほしい。

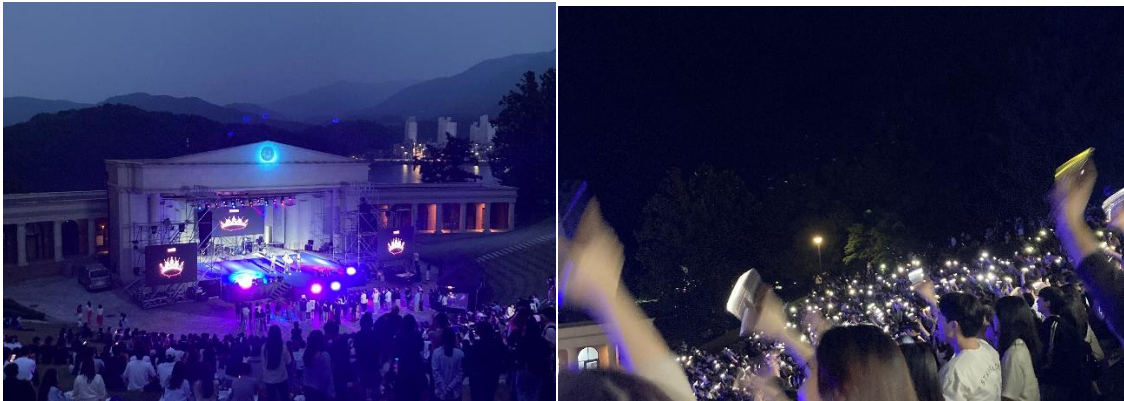


右端に写る建物が密集している場所が「メジリ」

次に、主に大学で見つけた発見を紹介しようと思う。まずは延高戦（ヨンゴジョン）と大学祭での発見を紹介する。延高戦とは、延世大学校と高麗大学が5つの競技を通して対戦をするスポーツ大会である。延高戦ではアカラカと呼ばれる応援団が応援歌を歌いながらダンスを踊り、観戦客もアカラカ合わせて歌って踊っていた。延世大学と高麗大学の学生たちがそれぞれの大学カラーを着て肩を組みながらそれぞれの応援歌を歌う姿には、私が日本の大学に通っていた際には感じられなかった生き生きとした大学生の熱気があり、愛校心と強い団結力を感じた。



また大学祭では、音響とライトの設備が整ったステージで、ダンスサークルが多くのダンスを披露しており、若者のエネルギーを感じた。加えて有名歌手のステージもあり、非常に盛り上がりのある大学祭だった。韓国の大学の行事には、学生に愛校心と団結力とエネルギーを与える力がある。韓国の大学に関しては、SKY(ソウル・高麗・延世)以外の大学や地方大学には価値が見出されないという問題がある。しかし、このように生き生きとした学生を生ま出すことができる点は、韓国の大学の魅力だと思った。



また、防災意識についても発見があった。11月頃、朝方に寮の火災報知器が誤作動で作動してしまう出来事があった。その際、日本人を含む留学生たちはすぐに外に出たが、多くの韓国人学生たちは部屋から出ず、電話で事務室に状況を確認していた。もしあの日実際に火

災が起こっていたら、逃げ遅れてしまう学生が出たと思う。火災報知器が鳴った際の韓国人学生たちの行動は、予想外を考えておらず、とても危険である。これは日本人と韓国人の防災意識の違いを知る出来事だった。この出来事から、韓国は防災訓練をさらに行う必要があり、学生たちの防災意識を高めさせるべきではないかと韓国の防災について考えるようになった。最後に、在學生についての発見である。留学に行って私が最も驚いたことは、未来キャンパスには多くの在日韓国人が正規留学しているということである。今まで在日韓国人の歴史を学んだことはあったが、在日韓国人の進路について関心を持ったことはなかった。留学先で在日韓国人と会話をして知らなかったことを知るたびに、同じ国で暮らしてきたにも関わらず、同世代の在日韓国人について無知であったことを恥ずかしく思い、在日韓国人の方への申し訳ないという感情も感じた。これを機に、同じ国に住む同世代の友人たちに私ができることはないかと考えるようになった。

留学先では、この報告書に書ききれないほどの発見と学びがあり、忘れられない友人たちとの思い出ができた。今回の交換留学での一番の学びは、個人と個人の接触は自分の関心事を増やし、他人事と捉えるものを減らしてくれるということである。これは、在日韓国人の友人と出会ったことから主に感じたことである。他人が友人になれば、その人を自分に置き換えて考えるようになり、自分には関係ないと思っていたことが他人事ではなくなる感覚を体験した。まだ留学を体験していない方にも、留学を通して他人事が自分事、あるいは関心事に変わっていく体験をしてほしい。この体験をする人増えれば増えるほど、世の中は優

しい世界になっていくのではないだろうかと思う。私もこの交換留学の体験に留まらず、さらに広い関心と広い視野を求めて、今後も積極的に新しい出会いを探し、新しい場所に飛び込んでいこうと思う。